

【結語】極端な偏食と紫外線遮断に起因したビタミンD欠乏性骨軟化症の1例を経験した。低Ca血症を評価する為にはAlb, P, Mg, VitaminDも合わせて確認する必要がある。

6 当院救急外来を受診した低血糖患者の検討

北澤 勝・横川かおり・八幡 和明

長岡中央総合病院 糖尿病センター

当院救急外来を一年間に受診した低血糖患者は37名であった。糖尿病患者29名で1型糖尿病が10名、2型糖尿病が19名、その他の糖尿病が2例であった。7名が入院し高齢、腎機能低下、SU剤内服患者で入院が多い傾向があった。非糖尿病患者が8名おり、4名がダンピング症候群による低血糖であった。他の4名は神経性食思不振症、がんの末期など低栄養を基礎とした重症の低血糖であり、2名が入院後一日以内に死亡し、2名が数ヶ月後に死亡した。

また、2014年4月1日より救急救命士の業務が拡大し、意識障害患者への血糖値の測定と低血糖患者へのブドウ糖の投与が可能となった。搬送先の選定や低血糖患者の予後の改善が期待される。当院では一年間で16例がブドウ糖の投与を受け救急外来を受診した。救急隊到着時JCS2桁13名、3桁が11名であった、受診時にはそれぞれ6名、4名に減少していた。有効性については今後更なる検討が必要である。

7 メトホルミンで妊娠しえた肥満不妊女性症例

三ツ間友里恵・鈴木 克典

済生会新潟第二病院 代謝・内分泌内科

【背景】不妊の原因として肥満に伴うインスリン抵抗性が関与することが指摘されており、その一つに多のう胞性卵巣症候群(PCOS)があげられる。インスリン抵抗性改善薬の排卵誘発効果が注目されているが、その有効性は明らかではない。

【症例1】39歳女性、PCOS。10年前の不妊治療では妊娠しなかった。クロミフェン療法(CC)にメトホルミン(MET)を併用し、8ヶ月後妊娠し、出産した。

【症例2】40歳女性、PCOS。CCを開始したが無効のためゴナドトロピン療法へ変更し、MET開始した。AIHを併用し、MET開始10ヶ月後妊娠し、出産した。

【症例3】30歳女性、PCOS。CCにMETを併用し、無効のためゴナドトロピン療法へ変更、MET開始後12ヶ月で妊娠、出産した。

【考察】PCOSの原因は明らかではないが、一つにインスリン抵抗性による高インスリン血症に伴うアンドロゲンの高値が考えられており、METはインスリン抵抗性を改善して性周期を正常化し、排卵に至ると考えられる。

【結語】インスリン抵抗性を伴うPCOSに対して不妊治療の補助としてMETが有効であるかもしれない。

8 Cabergoline 導入後の Giant Prolactinoma の治療成績

岡田 正康・米岡有一郎・大野 秀子
藤井 幸彦

新潟大学脳研究所脳神経外科学分野

最大径で40mm以上の下垂体腺腫はGiantと定義される。こうしたGiant Prolactinoma (PRLoma)にも当科ではCabergoline (CAB)を初期治療に用いてきた。そこでCABのGiant PRLomaの治療成績の分析に、2014年度に当科通院中のPRLoma患者108名から初回治療にCABを用いた8名を解析した。発症年齢は平均56.5歳、男女比5:3、腫瘍最大径は平均51.8mm、追跡期間中央値は74.5ヶ月、CAB最大投与量中央値は0.75mg/週(0.25-14mg/週)であった。CABの効果は、血清PRL正常化率が37.5%で、50%以上の腫瘍縮小率を示した割合が62.5%だが、1例のみ腫瘍が再増大し、放射線療法を行った。髄液漏や下垂体卒中等の合併症、視機能悪化、新たな